



INDONESIA MISSION



発行：日本福音教会(JEC) インドネシアミッション

〒662-0896 西宮市上ヶ原六番町2-42 西宮福音教会内 TEL：0798-51-5100

郵便口座：00970-3-313875 「インドネシアミッション」

HP：<https://indonesiamission.info/>



グンジュマ村へ向かう道中の橋をバイクで渡る様子

いつもお祈りとご支援をありがとうございます。

私は今年2月に、関西聖書学院(KBI)のアウトリーチで3年生とともにタイの北部に行き、そこで大変励ましを受けました。訪れたのは、アカ族という山岳部族の村でした。数十年前にアカ族の一人の姉妹が村で初めて救われました。そしてその姉妹を通して村の人々が次々と救われて村の半分以上がクリスチャンとなりました。救われたキーパーソンたちは教育を受け、この地域はコーヒービジネスで発展していました。このビジネスは地域に雇用をもたらし、福音を伝える場となり、またビジネスの収益は宣教のために用いられていました。

そこで見た事は、カリマンタンのグロリア寮1&2の地域の良いモデルでした。いつかグロリア寮の舎監や、奨学生たちにこのアカ族の地域をぜひ見て欲しいと願わされました。

インドネシアミッション代表 高橋めぐみ



タイにて

舎監ミーティング

代表 高橋めぐみ

昨年12月、2020年2月以来約3年ぶりにカリマンタンを訪れ、現地の働き人たちと再会しました。中高生寮の舎監たちとは特別に12月22日に一日ミーティングを持ち、共に祈りと賛美の時を持ちました。3年間のブランク、どうなっているかな？と思いましたが、共に賛美を捧げた時あつという間に、ブランクを感じさせない主にある一致を感じました。ATI神学生の時から共に礼拝し共に歩んできた、主にある仲間の嬉しい一致でした。変わらない彼らとの関係に安堵しながら、しかし「変わったなあ」と感じる瞬間も多々ありました。まずはグロリア寮1舎監のデルフィ。久しぶりに寮に到着したときに出迎えてくれた笑顔が、以前と全く違っていました。随分柔らかくなって落ち着いて余裕がありました。思い返せば、3年前はグロリア寮も移転したばかりで寮の設備、備品もまだ整っておらず、そこへ大勢の子ども達が新しく入寮してきて、様々な問題にも直面し余裕がなかったのだと思います。当時は、グロリア寮Ⅱのヘルマヌス家族とも関係は仲が良いとは言えず、どうしたものかと私も内心悩んでいました。しかし今回見たのは両家族の、お互いを思いやり助け合う美しい関係でした。本当に良かった。ハレルヤ！



グロリア寮Ⅰにて舎監たちと

●族伝道のタヨナ氏家族も随分成長していてびっくりしました。こちらはとても謙遜にそして良く体を動かして仕えるようになっていました。長男のB君は、3年前はやんちゃ・わがままで手を焼かされる子どもでしたが、今回は私たちの食後のお皿をさっと下げてくれたり、集会では進んで献金を集めてくれたり。その奉仕する姿にびっくり。「きっとこの3年間、経済的な事など苦労したのだらうなあ」と直感的に感じました。

そしてすごかったのが、タヨナ氏の祈りでした。●族の家を訪問し、彼らのために祈る時、パワーと言うか、ものすごい権威を感じました。やはり●族の魂の救いのために、犠牲と危険も覚悟して身をささげているから、そして日々信仰の戦いを戦ってきたからだと思われました。



プニティ・アナスタシス教会

プニティ教会は設立初期より様々な戦いがありました。フレンキー牧師になってからは、多くの子どもたちも教会につながり、大変祝福されてきました。フレンキー師にはこれからも長く牧会してほしいと私も教会員も願っています。

ところが、教会が自立、政府からの認可という方向に進んでいる今、大きな問題に直面しています。それは、フレンキー師が近くの中学で宗教(キリスト教)を教えている事で、所属するGMII教団から牧師か教師かどちらか一つにするようにお達しがきたのです。GMII教団では牧師は他に仕事をしてはいけないという規則があるのです。

師には2人の子どもがいて、彼らの教育費もかかり教会からの謝礼ではどうしても足りません(教会からの謝礼は1か月約1万3千円です。西カリマンタン州の最低賃金は2万2千円です)。それで、教会員たちは相談して、何とか少しだけでも謝礼を上げる事にしました。私も師に電話をして「教育費については奨学金も考えられるので、牧師を辞めないように」伝えました。

それに対してフレンキー師はこのように答えました。「自分のプニティ教会への重荷は変わらない。でも自分が中学で宗教を教える事で多くの子ども達が福音を聞く事ができ、そして今まで多くの子ども達が教会につながっている。だから自分は続けて中学で宗教を教え、牧師は辞めて、新しく来られる先生と協力しながら一教会員としてプニティに仕えたい」。私は「うーむ」と考え

フレンキー師の決断

代表 高橋めぐみ



フレンキー師ファミリー

せられました。一番良いのはGMII教団がその規則を撤廃することなんですけど…。

(補足説明: インドネシアの学校では宗教の時間があり、それぞれ自分の宗教の授業を受けます。プニティは華人インドネシア人の地域で、彼らの家は仏教、儒教信仰ですが、それを教える教師が不足しているため、ほとんどの子どもたちはキリスト教の授業を選択します)

スルートウンバワン・グロリア寮Ⅱ Maju bersama 共に前進 代表 高橋めぐみ



グロリア寮Ⅱ近くの橋とセピア色の夕焼け

グロリア寮Ⅱがあるスルートウンバワン村、そしてその周辺のダヤク・スンクン族の村々の一つの課題は、すぐ隣の国マレーシアとの経済格差です。スンクン族の地域は山岳地帯で、人々は農業を営んでいますが、昔ながらの方法でなかなか現金収入を得ることが難しいのです。一方山を越えてマレーシアに入ると、レストランやお店が沢山あります。そしてそこでお皿洗いや、給仕、土方などで得られる給料は、インドネシア側で仕事した場合の約4倍です。そういうわけで、スンクン地域の若者はどうしても目先のお金を優先させて山を越えてマレーシアに行き、そこで労働力となっています。彼らは一時的な収入は得られますが、考え方は変わらないので経済は賢く管理されません。そしてこちら側の地域はいつまでも発展していかないのです。



カリマンタン島西部地図



グロリア寮Ⅱの寮生の調理風景

そのような中で、グロリア寮の舎監ヘルマヌスを中心に今新しいアイデアが与えられています。それはこの地域に高原野菜(キャベツ、ニンジン、玉ねぎなど)を植えて、それを産業とできないかという考えです。この地域は標高が高いため朝晩は涼しく、また土地も肥沃です。そして高温多湿のカリマンタン島全域では、高原野菜をジャワ島から船で運んでくるので値段は高いのです。

スンクン地域は、以前は僻地でインフラが整っていませんでしたが、今は車やバイクの道ができました。野菜を売る市場のコネも心当たりがあります。運営していく人材はというと、ヘルマヌスを中心に奨学金を受けて高等教育を受けたグロリア寮Ⅱ出身者たちがいます。「やってみるか」。「失敗してもそれはプロセス」。そういうわけで、今この夢にチャレンジしようとしています。お祈りに覚えていただけたら感謝です。



栽培しているトウモロコシ畑の一部

西カリマンタン



ヘルマヌス兄とトウモロコシ



こちらから動画をご覧ください
いただけます
舎監ヘルマヌス兄がトウモロコシ栽培について熱く語っています

高橋めぐみ先生の横で、インドネシアミッションのお手伝いをしている三方美智子と申します。会計、翻訳、舎監たちとのやりとりなどのサポートで関わらせていただいて約4年経ちます。私はインドネシアに行った経験が無く、インドネシア語も出来ず、現地の場所や人が分からず、最初は混乱していました。少しずつ理解が広がりましたが、一度現地を見たいと願っていました。ですから今回、訪問が実現して感謝しています。



グロリア寮Ⅱで子どもたちと

6つの街を訪問するスケジュールで移動距離が長かったですが、全てのスケジュールで安全・天候・健康が守られました。本当に、祈りにより支えられていることを実感しました。長く忘れていましたが、私は以前、イスラエルでフードバンクの短期ボランティアに参加したことがあります。その後、子ども支援も含めて支援に関わる働きをしたいと考えるようになりましたが、このようにしてインドネシアミッションの働きを通して、海外の子どもたちに関わり、支援するようになるとは予想していませんでした。神様の計画は大きいと改めて思われます。国境を越えてインドネシアに入る時、入国審査で査証が必要になりました。待つ間、ニコニコした審査官が現れ、緊張は解けました。その審査官はグロリア寮Ⅰで育ち、卒業後に入国の仕事をしておられるエルヴィン兄でした。



バイクで移動の様子

他にもスルートウンバワンで、帰省中の卒業生と偶然の再会がありました。また、めぐみ先生が来られていることを聞いて駆け付けた卒業生もいました。寮での生活を通して養われ、社会で働いている卒業生たちが頼もしく見えました。しかし、仕事が無く、山を越えてマレーシアへ働きに行かないといけない人もいます。彼らが守られるように願うとともに、1人でも多くの子どもたちが必要な教育を受け、仕事を与えられるよう支える大切さを学びました。S市では、多くの祈りと励ましによって実現したミッションハウスに滞在させていただき、タヨンナ師が導いておられる●族のご家族を訪問しました。インドネシアから届く便りの中で、タヨンナ師から届く祈祷課題や届くビデオが一番多く、どのような方かと関心を持っていました。実際にお会いすると、タヨンナ師はとても信仰深く、優しく穏やかな方でした。そしてビジョンを語り、祈り、訪問した際は、とても力強く大胆でした。長男B君はよく手伝い、家族全員で

働きをしていました。この地で●族の人がイエス様を信じるならば迫害もありますし、戦いが非常に大きく、簡単なことではないと改めて教えられました。師の宣教の情熱、また出会った●族ご家族を通して、これからも続けて祈り、支えになりたいと思いました。

スルートウンバワンへは車で行けるようになっていました。冬休みに入って帰省していた子どもたちは、4時間歩いてグロリア寮Ⅱまで戻って来てくれていました。寮生は全員まっすぐで明るい子ども達でした。ネリ姉が開所したグンジュマ村の保育所の働きでは、この村に着くまでの坂、川、つり橋を渡って行く道のりを、彼女もバイクで普通に行き来していることに驚きました。この村に本当に必要な働きを始めておられることがよく分かりました。

舎監ミーティングでは、いつもやりとりをしている皆さんにお会いすることが出来ました。それぞれの地に問題・課題が多くありました。しかし、教会や寮だけでなく、村にも還元して豊かになるように、またその目的の根源が豊かさでなく、宣教であるように、そしていつか自分達も自立出来るように言うておられ、とても頼もしかったです。この働きに日本の支援者も現地の人々も共に進んでいることを改めて思いました。



各寮の舎監たちと

限られた時間の中、沢山の方々に駆け足でお会いしました。また各地の写真や報告を見て一緒に祈って来ましたが、実際に見て過ごして肌で感じたことは、その地を知ることにおいて何にも勝る経験でした。多くの街で働きを展開し、沢山の人々に関わってこられためぐみ先生や、インドネシアに関わってこられた先生方の働きの大きさを知りました。また、現地で活動する方々の中に、主にある関係性と信頼があり、神様の愛がありました。

インドネシアミッションは、次の宣教師の先生にバトンをお渡しするまでの現状維持の働きだと思っていました。でも、止まることなく、カリマンタンで働きが広がって進んでいて、前進していると知りました。これからますます面白くなると思います。この働きの前進のために、また皆さんと共に祈り、主のご計画が実現するのを見ていきたいと思いました。まだ自分に出来ることは少ないですが、心を込めて事務サポートをしていきたいと思いました。

視察の様子を動画でもまとめました。ぜひご覧ください。



－ 祈りのリクエスト －

ATI神学校

- ◎神学生、スタッフの祝福のために。
- ◎神学校の経済が祝福されるように。

3つの学生寮共通

- ◎子ども達の教育、霊性、生活指導が導かれるように。
- ◎指導する舎監達に知恵が与えられるように。

エンティコン・グロリア寮Ⅰ

- ◎公道から寮への道であと1ヶ所地崩れ対策が必要です。急斜面での工事に知恵が与えられるように

スルートウンバン・グロリア寮Ⅱ

- ◎ピナンの木プロジェクト、高原野菜プロジェクトなど計画中です。寮の経済的自立につながるように。

ブンカヤン・ベラカ寮

- ◎ベラカ寮が地域の必要に応える寮として運営していけるように。

ボルネオ保育所

- ◎保育所の建物が与えられるように。近くの未使用保健所を借りる事を期待していましたが、正式に断られました。

奨学生（中高生寮出身者）

- ◎必要が満たされ、誘惑や事故から守られ無事に卒業できるように。

プニティ・アナスタシス教会

- ◎教会が政府と地域に正式に認可されるように。手続きがスムーズに進むように。

沿岸部族への働き

- ◎救われた●族の人達が霊的、道徳的に成長するように。
- ◎イドルフトリ（ムスリム新年）の訪問を主が導いてくださるように。

沿岸部族への働き

- ◎8月と12月に予定されているカリマンタン訪問が祝福されるように。

ミッショントリップ同窓会レポート

インドネシヤミッション委員
富浦 信幸

去る3月12日(日)、KBIのめぐみ先生宅にて、インドネシヤミッショントリップ同窓会を行いました。今回は、2018年12月の年末から年始にかけて、高校生から社会人まで総勢8名が参加したミッショントリップのメンバーが集まりました。豪華インドネシヤ料理(ソアヤム、ナシゴレン、サテアヤム、ルンダン、テンペゴレン等)が並び、インドネシヤ語ワーシップが流れ、さながらインドネシヤにトリップしたかのような雰囲気です。当時、高校一年生で参加した二人が大学生になり、時の流れを感じつつ、トリップの思い出話に花が咲きました。行きの飛行機の乗り継ぎで、予定していた



集まった同窓会のメンバー

飛行機に間に合わず空港のカプセルホテルで一泊したこと、奥地スルートウンバンに着くなり川マンディ(水浴び)したこと、果物の王様ドリアンの味に思わず吐き出してしまったこと、ジャングルで滝つぼにダイブしたこと、大晦日から元旦にかけて焚火を囲んで舎監やスタッフと一緒に夜通し賛美したこと、言葉が通じなくとも共に礼拝し祈り合ったこと…話が尽きません。

また、それぞれの近況も分かち合いました。ミッショントリップの経験が、単に異文化体験に終わらず、その後の人生にも影響を与えていることを知り、トリップ開催の重要性を改めて感じました。最後は、それぞれの祈り課題をシェアし、お互いのために祈り合い、会を閉じました。これからは彼らがそれぞれに遣わされたところで、宣教の働き

の一端を担っていただけることを信じ、また次世代から宣教の器が次々と起こされてくることを心から主に期待しています。



当時のミッショントリップ

◎坂口和歌子姉(南大阪福音教会)

行った時のことがグッと思い出されました。当時よりも、現場での働きが広がり祝福され、思いがけない出会いがあり、神様のことを話す機会が与えられています。

◎川上麻奈姉(堺福音教会)

みんなの変化、近況、思い出を分かち合うと自分も神様の計画の中で導かれた平安の道を歩んでいるんだと、改めて振り返ることができ感謝でした！

◎富浦颯兄(国分福音教会)

久しぶりに会って、めっちゃ楽しかったです。色んな思い出話をしたり、近況を聞いたり、一緒に祈り課題をシェアする中で、神様によって合わされた神の家族のすばらしさに改めて感動しました。

◎北健三郎兄(東京チャペル)

ミッショントリップで受けたものが、一人一人の人生の中で繋がっていることを確認できて嬉しかったです。キリストにあって一つになれること本当に感謝だなと思いました。



インドネシヤ料理で同窓会

◎横田愛海姉(堺福音教会)

インドネシヤ料理に、インドネシヤファミリー。とても懐かしくて楽しい時間で気を使わずにいれる空間でした。面白い事も、真剣な事も一緒に共有できるインドネシヤの家族がとっても大好きです！

◎小林日和姉(パークサイトチャペル ※ビデオ電話で参加)

ミッショントリップを通して日本だけでなく世界で神様の福音が流れていることを実感し、神様の大きな御業を感じました。日々の生活で、神様から離れてしまいそうになることがあります。インドネシヤで神様から受け取ったことを握り続けて歩んでいきたいです。